

# 公立大学法人岩手県立大学に係る 中期目標期間の業務実績評価結果

～中期目標の計画期間6年間のうち4年経過時における暫定的な評価結果～

平成21年10月  
公立大学法人岩手県立大学

# 目 次

|                      |        |
|----------------------|--------|
| 1 全体評価（評価のまとめ）       | 1 ページ  |
| 2 各カテゴリーの総括          | 3 ページ  |
| 3 カテゴリー別評価           |        |
| ○カテゴリー1「教育」          | 8 ページ  |
| ○カテゴリー2「研究」          | 10 ページ |
| ○カテゴリー3「地域・国際貢献」     | 11 ページ |
| ○カテゴリー4「業務運営」        | 12 ページ |
| ○カテゴリー5「財務」          | 13 ページ |
| ○カテゴリー6「評価・情報提供」     | 14 ページ |
| ○カテゴリー7「施設設備」        | 14 ページ |
| 4 カテゴリー別評価に関する特記事項   | 15 ページ |
| 参考1 評価の目的、体系、方法及び留意点 | 17 ページ |
| 参考2 用語解説             | 19 ページ |

## 1 全体評価（評価のまとめ）

### （1）本学のこれまでの取組

- 本学は、岩手県の歴史や風土、伝統のうえに、21世紀の新たな時代を拓く高度な教育研究拠点として、県民の大きな期待のもと、平成10年4月に、看護、社会福祉、ソフトウェア情報、総合政策の4学部既存の盛岡、宮古の両短期大学を併設して2短期大学部に再編し、総合大学として開学した。
- 開学に当たっては、**建学の基本理念**を「『自然』、『科学』、『人間』が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指します」とするとともに、この基本理念の下、大学の基本方向を次の5つと定め、大学づくりを行ってきた。

#### 《大学の基本方向》

- ① 豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養
  - ② 学際的領域を重視した特色ある教育・研究
  - ③ 実学・実践重視の教育・研究
  - ④ 地域社会への貢献
  - ⑤ 国際社会への貢献
- その後、平成17年度には、予算・人事・組織運営など大学経営全般の自主性・自律性を高めるため、公立大学法人に移行し、これにあわせて、岩手県知事から平成17年度から平成22年度までの6年間にわたる「中期目標」が示された。この中期目標では、大学を取り巻くさまざまな環境の変化に対応し、運営の自律性をさらに確立し、教育・研究の一層の質的向上を図るため、「大学の基本方向」を発展させながら、次のような姿を目指すこととされた。

#### 《大学の目指す姿》

- ① 「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学
- ② 志に火をつける「実学実践」の教育による人間的成長を培う大学
- ③ 「実学実践」を中核とした「人間教育」・「実証研究」・「地域貢献」の一体的な進展

これらの目指す姿は、業務運営、財務等の着実な運営のもとに、公立大学として求められる「教育」、「研究」、「地域貢献」のさらなる充実・進展を図ることにあるが、本学では、この中期目標を達成するため「中期計画」を策定し、理事長、学長のリーダーシップの下、これらの実現に向け、積極的に取組を進めてきた。

- また、平成20年度には、学校教育法第109条第2項の規定に基づき、財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、評価の対象となった岩手県立大学、岩手県立大学盛岡短期大学部及び岩手県立大学宮古短期大学部は、いずれも大学基準に適合していると認定された。
- 本学においては、これまでの取組により、公立大学法人として自主的・自律的に大学運営していく基盤は確立されてきているところであるが、今般、次期中期目標・中期計画（計画期間：平成23年度～29年度）の検討に資することを目的として、計画期間4年を経過した平成21年4月1日を基準日として、岩手県から示された「公立大学法人岩手県立大学に係る中期目標期間の業務実績評価（暫定的な評価）実施要領」（平成21年8月21日制定。以下「評価実施要領」という。）に基づき、中期目標の達成状況を暫定的に自己評価したところである。

## (2) 自己評価結果

今回実施した暫定評価において、現中期目標の「目指す姿」に掲げる「教育」、「研究」及び「地域貢献」などについて、自己評価した結果は次のとおりである。

- まず、「教育」については、現実の地域課題等を扱う演習・実習、少人数教育の拡充により学生の人間的成長を培う「人間教育」を推進した結果、高い就職率を維持し、就職先からも高評価を得ている。

今後においては、地域や組織のリーダーの資質を備えた人材の育成に向けて、教育体制を一層充実させる必要がある。

- 次に、「研究」については、外部研究員の拡充や資金の重点配分を行い、現代社会の緊急課題や地域課題の研究に重点的に取り組み、成果を社会に還元した。

今後においては、さらに地域ニーズに応じた研究テーマを発掘するとともに、学外との新たな連携体制を構築し、研究のレベルアップを図る必要がある。

- 次に、「地域貢献」については、公開講座の実施などにより社会人等の教育機会の充実に努めるとともに、産学公の連携などにより地域企業の発展に寄与するなど地域貢献に努めた。

今後においては、さらに地域のニーズを的確に把握しながら幅広い連携体制を構築することなどにより、地域の期待に応えられるような地域貢献活動に努めていく必要がある。

- このほか、「教育」、「研究」及び「地域貢献」を下支えする業務運営、財務、評価・情報提供及び施設設備については、施設設備をはじめとして財務、評価・情報提供の面では中期目標の実現に向けて成果があがっているが、業務運営の面では、今後、さらに理事長、学長等の意思決定組織の役割・権限の明確化や教職員の大学運営への理解と積極的な参画が得られるように取り組む必要がある。

- 以上のように、「本学の現状は中期目標の実現に向けて全般的に取り組みが進んでおり、一定の成果が出ているが、中期目標に掲げた目指す姿を実現するための組織的な対応をさらに一層進展させ、目標達成のために残された課題の早急な解決に向けて全学的な改革・改善の取組を着実に進める必要がある」と自己評価したところである。

## (3) 今後の取組方向

- 今後においては、達成状況が未達成のものについては、重要度や優先度等を考慮のうえ、対応可能なものから早急に課題解決のための取組を積極的に進めるとともに、必要に応じて平成22年度計画に適切に位置づけることなどにより、できるだけ早期に達成できるよう努めるものとする。

- 本学においては、これまでの取組をさらに発展させ、地域中核人材の育成、創造的な学術研究を通じた岩手の知の創出や産学公の連携・協働に精力的に取り組む、県民等から高い評価を得られるような大学づくりを積極的に推進していくものとする。

## 2 各カテゴリーの総括

### (1) カテゴリー・評価項目別評価の総括表

カテゴリー・評価項目別の評価については、(2)以降に記載しているとおりであるが、その達成状況を総括すると次表のとおりである。

#### 各カテゴリー・評価項目別評価(総括表)

| カテゴリー                | 大目標                                      | 評価項目               | 達成度 |
|----------------------|------------------------------------------|--------------------|-----|
| 1 教育<br>【達成度】 B      | 「人間教育」の実践により、地域・組織をリードする自律した人材を養成する      | 1-1 教養教育の充実        | C   |
|                      |                                          | 1-2 高度な専門教育        | B   |
|                      |                                          | 1-3 入学者受入方針の明確化    | B   |
|                      |                                          | 1-4 教育課程・方法等の改善    | B   |
|                      |                                          | 1-5 教育の実施体制等の充実    | C   |
|                      |                                          | 1-6 学生支援           | B   |
| 2 研究<br>【達成度】 C      | 現代社会の緊急課題や地域課題の研究に重点的に取り組み、成果を社会に還元する    | 2-1 学際的・複合的な研究への取組 | C   |
|                      |                                          | 2-2 研究実施体制等の整備     | C   |
| 3 地域・国際貢献<br>【達成度】 C | 教育機会の充実、シンクタンク機能の強化を図り、国際交流事業を積極的に推進する   | 3-1 社会人教育等の実施      | B   |
|                      |                                          | 3-2 産学公の連携推進       | C   |
|                      |                                          | 3-3 交換留学・共同研究の推進   | C   |
| 4 業務運営<br>【達成度】 C    | トップのリーダーシップと業務の効率化により、新たな課題に戦略的、機動的に対応する | 4-1 教育研究組織の見直し     | C   |
|                      |                                          | 4-2 人事の適正化         | C   |
|                      |                                          | 4-3 事務の効率化         | B   |
| 5 財務<br>【達成度】 B      | 財務内容の改善に努め、大学経営の健全化を図る                   | 5-1 外部研究資金の増加      | C   |
|                      |                                          | 5-2 経費抑制・資産管理の改善   | B   |
| 6 評価・情報提供<br>【達成度】 B | 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映し、運営状況を広く県民に周知する    | 6-1 評価の充実          | B   |
|                      |                                          | 6-2 情報公開の推進        | B   |
| 7 施設設備<br>【達成度】 A    | 施設設備を適切に管理し、学内での有効活用、安全確保を図る             | 7-1 施設設備の整備        | A   |
|                      |                                          | 7-2 安全管理           | B   |

#### 【達成度の運用基準】

A：中期目標期間内に予定していた取組がほぼ達成し、十分な成果をあげていると認められる。

B：順調に取組が推移し、一定の成果をあげているものの、目標達成のため、引き続き継続した取組が必要と認められる。

C：取組が進んでいるものの、まだ十分な成果があがっておらず、目標達成のため、これまで以上の取組が必要と認められる。

D：取組内容、成果とも十分とはいえず、取組内容の大幅な見直しが必要と認められる。

E：時代状況の変化等中期目標を達成できないことにやむを得ない事由が認められる。

## (2) カテゴリー別評価の概要

### カテゴリー１ 教育

【大 目 標】「人間教育」の実践により、地域・組織をリードする自律した人材を養成する

【達 成 度】B

【評価内容】

- ① 入学者受入方針の明確化により学生の受入体制を整備し、大学が求める資質と能力のある学生の確保に努めた結果、意欲ある学生を確保できた。
- ② 実践的課題を採り入れた教育課程・方法の改善、少人数教育の拡充、学生への学習・生活・就職支援の充実により、「人間教育」に資する教育・学習環境を整備した結果、学生の満足度は高水準を維持している。
- ③ 「実学実践」の理念のもとで教養教育と高度専門教育を融合させた総合教育を目指した結果、就職先企業からも卒業者に対して概ね高い満足度を得ている。
- ④ 今後、さらに大学院・編入学志願者の確保、教養教育の位置づけ・実施体制の見直し、語学教育の一層の充実、授業評価を含む組織的・体系的なFD活動等の取組が必要である。

### カテゴリー２ 研究

【大 目 標】現代社会の緊急課題や地域課題の研究に重点的に取り組み、成果を社会に還元する

【達 成 度】C

【評価内容】

- ① 企業等からの外部研究員を拡充するとともに、学術研究費に「全学プロジェクト研究」等の枠を設置し、資金を重点配分した結果、地域課題への対応と学際的・複合的な研究を推進することができた。
- ② 「公募型地域課題研究」の実施や研究成果発表会の開催等により、地域ニーズの把握や成果の普及・技術移転に取り組んだ結果、一部自治体事業に反映されるとともに、受託・共同研究件数が増加するなど、研究成果を地域社会に還元することができた。
- ③ 今後、学際的プロジェクトが積極的に展開されるためのコーディネート機能や相互の協力体制の強化充実を図るとともに、緊急度・重要度に応じた研究テーマの発掘と外部との新たな連携体制の構築などに取り組む必要がある。また、多様な学術分野の教員の研究能力を維持向上させる研究基盤を確保するとともに、各学部の特性に応じた研究者の交流や研究補助員の拡充等を行うなど研究実施体制を整備するほか、併せて科学研究費補助金等の外部資金の獲得についても促進する必要がある。

### カテゴリー３ 地域・国際貢献

【大 目 標】教育機会の充実、シンクタンク機能の強化を図り、国際交流事業を積極的に推進する

【達 成 度】C

【評価内容】

- ① 公開講座の実施や遠隔教育の拡充により、社会人教育等を積極的に推進し、教育機会の充実に努めた。
- ② 知的財産の管理・活用の仕組みの整備、「滝沢村IPUイノベーションセンター」の設置などにより、産学公の連携研究や学部横断的な研究の成果が一部上がっているものの、地域課題への政策提言等はまだ不足しており、今後、地域のニーズを的確に把握するとともに、幅広い連携体制を構築し、シンクタンク機能を強化する必要がある。

- ③ 国際交流事業については、留学生の受入れが主となっていることから、交換留学や共同研究を推進するためには、今後、全学的な方針の明確化と支援体制の構築を行う必要がある。

#### **カテゴリー4 業務運営**

【大 目 標】 トップのリーダーシップと業務の効率化により、新たな課題に戦略的、機動的に対応する

【達 成 度】 C

【評価内容】

- ① 理事長が主宰する役員会議や、学長が主宰する本部長会議、学部長等会議などを設置し、トップのリーダーシップを発揮できる仕組みを構築するとともに、任用制度の多様化や教員業績評価導入等による人事の適正化、事務局組織の見直しや電算化等による事務の効率化に取り組んだ結果、意思決定の迅速化と業務の効率化等が図られた。
- ② 今後、理事長、学長、各本部長などの意思決定組織の役割・権限の明確化を図るため関係規程の整備をするとともに、全学的な取組が教職員に浸透し、教職員が大学運営に参画しやすい環境づくりを進めるなど、さらなる努力が必要である。

#### **カテゴリー5 財務**

【大 目 標】 財務内容の改善に努め、大学経営の健全化を図る

【達 成 度】 B

【評価内容】

- ① 毎年度、県からの運営費交付金が削減される中で、冷暖房運転業務の見直し、設備維持管理費の委託業務への複数年契約の導入等により経費抑制を図るとともに、資金管理方針に基づく安全性を重視した資産管理に努めた結果、毎年度剰余金を生み出すなどの財務内容の改善により経営の健全化を図った。（平成 21 年 3 月末の目的積立金残高：1,464 百万円）
- ② 外部資金の導入金額が減少していることから、今後、さらに科学研究費補助金の応募を促進するなど全学的に積極的な取組を推進する必要がある。（平成 18 年度：69 件、185 百万円 ⇒ 平成 21 年度：95 件、140 百万円）
- ③ 運営費交付金が毎年度 1.5%ずつ削減される見通しであることから、今後、さらに経費の抑制を図るとともに、目的積立金の有効活用を図っていく必要がある。

#### **カテゴリー6 評価・情報提供**

【大 目 標】 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映し、運営状況を広く県民に周知する

【達 成 度】 B

【評価内容】

- ① 平成 20 年度に（財）大学基準協会による認証評価を受審し、評価機関が定める大学基準への適合が認定された。
- ② 部局の運営方針の策定と共有化、PDCA サイクルの仕組みの構築など評価の充実に努めるとともに、自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映した。今後、さらに PDCA サイクルが有効に機能するような仕組みづくりが必要である。
- ③ また、運営状況を広く県民に周知するなど積極的な情報公開の推進を図り、県民の理解が得られるよう努めた。今後、さらに県民の理解が得られるよう、保護者や学校長との懇談会等の場を活用し大学に対するニーズを的確に把握するとともに、効果的な全学広報等を実施していく必要がある。

## カテゴリー7 施設設備

【大 目 標】施設設備を適切に管理し、学内での有効活用、安全確保を図る

【達 成 度】A

【評価内容】

- ① 施設設備を適切に管理し、学内での有効活用を図るほか、ユニバーサルデザイン化に対応した環境整備（トイレ、自動ドア、エレベータ等）、学生が活動しやすい環境整備（学生ボランティアセンターや弓道場の新設）などの施設整備を進めた。
- ② 安全衛生、健康管理、危機管理のための体制整備を図るなど学生及び教職員等の安全確保を図った。



○ なお、カテゴリー別評価の「成果」と「課題」を取りまとめると次のとおりである。

【「成果」と「課題」の整理表】

| カテゴリー     | 成果                                                                                                                                                                     | 課題                                                                                                                                                     |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 教育      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲ある学生の確保</li> <li>・実践的課題を採り入れた教育課程・方法の改善</li> <li>・学生への学習・生活・就職支援の充実</li> <li>・教養教育と高度専門教育を融合させた総合教育の実施</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院・編入学志願者の確保</li> <li>・教養教育の位置づけ・実施体制の見直し</li> <li>・語学教育の一層の充実</li> <li>・授業評価を含む組織的・体系的なF D活動等の取組</li> </ul>  |
| 2 研究      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等からの外部研究員の拡充</li> <li>・地域課題への対応と学際的・複合的な研究の推進</li> <li>・地域への研究成果の還元</li> <li>・受託・共同研究件数の増加</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に還元できる成果の発現</li> <li>・外部資金の獲得の拡大</li> <li>・学内外の関係機関や研究者との連携機能及びサポート体制の強化</li> </ul>                          |
| 3 地域・国際貢献 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の実施や遠隔教育の拡充による社会人教育等の積極的な推進</li> <li>・知的財産の管理・活用の仕組みの整備</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のニーズの的確な把握</li> <li>・幅広い連携体制の構築</li> <li>・国際交流についての交換留学や共同研究の推進のための全学的な方針の明確化と支援体制の構築</li> </ul>             |
| 4 業務運営    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長や学長等トップのリーダーシップを発揮できる仕組みの構築</li> <li>・任用制度の多様化や教員業績評価導入等による人事の適正化</li> <li>・事務局組織の見直しや電算化等による事務の効率化</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長、学長、各本部長などの意思決定組織の役割・権限の明確化</li> <li>・全学的な取組の教職員への浸透と教職員の参画が図られる環境づくり</li> </ul>                            |
| 5 財務      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設維持管理経費の抑制や安全性を重視した資産管理などによる経営の健全化</li> </ul>                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金の応募促進など外部資金獲得のための全学的・積極的な取組</li> <li>・目的積立金の有効活用</li> </ul>                                            |
| 6 評価・情報提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(財) 大学基準協会による認証評価での大学基準への適合認定</li> <li>・部局の運営方針の策定と共有化</li> <li>・P D C Aサイクルの仕組みの構築</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・P D C Aサイクルがさらに有効に機能するような仕組みづくり</li> <li>・保護者や学校長との懇談会等の場を活用した大学に対するニーズの的確な把握</li> <li>・効果的な全学広報の実施</li> </ul> |
| 7 施設設備    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン化に対応した環境整備（トイレ、自動ドア、エレベータ等）</li> <li>・学生が活動しやすい環境整備（学生ボランティアセンターや弓道場の新設）</li> <li>・安全衛生、健康管理、危機管理のための体制整備</li> </ul> |                                                                                                                                                        |

## 参考 1 評価の目的、体系、方法及び留意点

### (1) 評価の目的

中期目標に定める中期目標の期間 4 年経過時において、法人が中期目標の達成状況について自己評価し、それを基に岩手県地方独立行政法人評価委員会が中期目標の暫定的な評価（以下「暫定評価」という。）を行うことにより、暫定評価時点での中期目標の達成状況や課題などを明らかにし、法人の中期目標達成のための方策の検討や、次期中期目標及び次期中期計画の検討に資することを目的として評価を実施した。

### (2) 評価の体系

暫定評価にあたっては、県民の方にもより理解しやすいようにするため、中期目標の項目を大きく 7 つのカテゴリーに分類し、カテゴリー全体を包括する大目標を明示したうえで、カテゴリーごとに中期目標の項目に対応する「評価項目」（全 20 項目）を設定した。

これらの評価に当たっては、「評価項目単位」、「カテゴリー単位」及び「全体」の 3 階層で行い、併せて「成果」と「課題」に明瞭に区分して評価を行った。

### 《中期目標とカテゴリー・大目標・評価項目との関係》

| 中期目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | カテゴリー・大目標・評価項目                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1 教育に関する目標</b><br>(1) 教育の成果<br>ア 学士課程(教養教育、専門教育、進路指導、成果の検証)<br>イ 大学院課程(専門教育、進路指導、成果の検証)<br>ウ 準学士課程(教養教育、専門教育、進路指導、成果の検証)<br>(2) 教育内容等<br>ア 入学者受入れ方針      イ 教育課程・教育方法・成績評価等<br>(3) 教育の実施体制等<br>ア 教職員の適切な配置等    イ 教育環境の向上<br>ウ 大学間、学内共同教育等の充実    エ 教育の質の改善<br>(4) 学生への支援<br>ア 学習支援の充実      イ 生活支援・就職支援の充実<br>ウ 社会人・留学生への教育支援 | <b>カテゴリー1 「教育」</b><br><b>大目標: 「人間教育」の実践により、地域・組織をリードする自律した人材を養成する</b><br>評価項目: ① 教養教育の充実<br>② 高度な専門教育<br>③ 入学者受入方針の明確化<br>④ 教育課程・方法等の改善<br>⑤ 教育の実施体制等の充実<br>⑥ 学生支援 |
| <b>2 研究に関する目標</b><br>(1) 研究水準・研究成果（地域社会への還元）<br>(2) 研究実施体制等の整備（学内外の共同研究、研究資金の配分）                                                                                                                                                                                                                                              | <b>カテゴリー2 「研究」</b><br><b>大目標: 現代社会の緊急課題や地域課題の研究に重点的に取り組み、成果を社会に還元する</b><br>評価項目: ① 学際的・複合的な研究への取組<br>② 研究実施体制等の整備                                                  |
| <b>3 地域貢献・国際貢献に関する目標</b><br>(1) 地域貢献（社会人教育、産学公連携）<br>(2) 国際貢献（交換留学、共同研究）                                                                                                                                                                                                                                                      | <b>カテゴリー3 「地域・国際貢献」</b><br><b>大目標: 教育機会の充実、シンクタンク機能の強化を図り、国際交流事業を積極的に推進する</b><br>評価項目: ① 社会人教育等の実施 ② 産学公の連携推進<br>③ 交換留学・共同研究の推進                                    |
| <b>4 業務運営の改善・効率化に関する目標</b><br>運営体制の改善（理事長と学長のリーダーシップ）<br>教育・研究組織の見直し<br>人事の適正化<br>事務の効率化・合理化                                                                                                                                                                                                                                  | <b>カテゴリー4 「業務運営」</b><br><b>大目標: トップのリーダーシップと業務の効率化により、新たな課題に戦略的、機動的に対応する</b><br>評価項目: ① 教育研究組織の見直し<br>② 人事の適正化      ③ 事務の効率化                                       |
| <b>5 財務内容の改善に関する目標</b><br>外部研究資金の増加<br>経費の抑制<br>資産の運用管理の改善                                                                                                                                                                                                                                                                    | <b>カテゴリー5 「財務」</b><br><b>大目標: 財務内容の改善に努め、大学経営の健全化を図る</b><br>評価項目: ① 外部研究資金の増加<br>② 経費抑制・資産管理の改善                                                                    |
| <b>6 自己点検・評価・改善及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</b><br>評価の充実<br>情報公開の推進                                                                                                                                                                                                                                                                   | <b>カテゴリー6 「評価・情報提供」</b><br><b>大目標: 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映し、運営状況を広く県民に周知する</b><br>評価項目: ① 評価の充実      ② 情報公開の推進                                                       |
| <b>7 施設設備の整備・活用等及び安全管理に関する目標</b><br>施設設備の整備・活用等<br>安全管理                                                                                                                                                                                                                                                                       | <b>カテゴリー7 「施設設備」</b><br><b>大目標: 施設設備を適切に管理し、学内での有効活用、安全確保を図る</b><br>評価項目: ① 施設設備の整備 ② 安全管理                                                                         |

### (3) 評価の方法

#### ア 全体評価

カテゴリー別評価の結果をふまえて、基準日時点において、中期目標で定めた大学の目指す姿にどれだけ近づいたかを検証した。

#### イ カテゴリー別評価

評価実施要領においては、各評価項目について、過去4年間の各事業年度（平成17年度～20年度）に係る業務の実績に関する報告書、認証評価結果、大学経営評価指標等を総合的に勘案し、「成果」と「課題」を洗い出して評価するとともに、達成度を次のA～Eの基準で評価することとされている。

- A：取組内容が特に優れており、めざましい成果をあげている。
- B：順調に取組が進んでおり、一定の成果をあげているが、なお継続的な取組が必要である。
- C：取組が進んでいるが、十分な成果をあげておらず、取組内容を改善しさらなる努力が必要である。
- D：取組内容、成果とも十分とはいえず、取組内容の是正措置を講じ、一層の取組を進める必要がある。
- E：時代状況の変化等中期目標を達成できないことにやむを得ない事由が認められる。

上記のA～Eの基準に基づき、本学の自己評価において次の基準により評価することとした。

- A：中期目標期間内に予定していた取組をほぼ達成し、十分な成果をあげていると認められる。
- B：順調に取組が推移し、一定の成果をあげているものの、目標達成のため、引き続き継続した取組が必要と認められる。
- C：取組が進んでいるものの、まだ十分な成果があがっておらず、目標達成のため、これまでに以上の取組が必要と認められる。
- D：取組内容、成果とも十分とはいえず、取組内容の大幅な見直しが必要と認められる。
- E：時代状況の変化等中期目標を達成できないことにやむを得ない事由が認められる。

また、各カテゴリーの評価に当たっては、大目標に照らして、それぞれの評価項目の評価結果を総括して評価するとともに、その達成度についても、同様にA～Eの基準で評価した。

### (4) 評価に当たっての留意点

ア 中期目標の達成状況が県民の方に分かりやすく伝わるよう、評価対象を重要度の高さ、目標と手段の関係性等に着目して簡潔かつ明瞭に整理したうえで評価を行った。また、評価に当たっては、財団法人大学基準協会による認証評価結果（平成21年3月）、大学経営評価指標（平成18年及び平成21年）等のデータを参考に、できるだけ客観的に評価するよう心がけた。

イ 評価に当たっては、岩手県立大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部を一体的に評価した。

ウ 特に積極的に取り組み、優れた成果をあげることができた事項については、「特記事項」として記載した。

エ 中期目標が未達成のものなど、中期目標を実現するための課題を明らかにし、これらへの今後の取組方向を記載した。

オ 中期目標の達成状況の評価に当たっては、中期計画の達成状況については、毎年度の業務実績報告の内容を暫定評価に反映させるが、個々の判定結果は参考程度にとどめた。

3 カテゴリー別評価

各カテゴリーの大目標及び評価項目に関する達成状況は、以下のとおりである。

カテゴリー 1「教育」

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |     |   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|
| 大目標  | 「人間教育」の実践により、地域・組織をリードする自律した人材を養成する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 達成度 | B |
| 評価内容 | ① 入学者受入方針の明確化により学生の受入体制を整備し、大学が求める資質と能力のある学生の確保に努めた結果、意欲ある学生を確保できた。<br>② 実践的課題を採り入れた教育課程・方法の改善、少人数教育の拡充、学生への学習・生活・就職支援の充実により、「人間教育」に資する教育・学習環境を整備した結果、学生の満足度は高水準を維持している。<br>③ 「実学実践」の理念のもとで教養教育と高度専門教育を融合させた総合教育を目指した結果、就職先企業からも卒業生に対して概ね高い満足度を得ている。<br>④ 今後、さらに大学院・編入学志願者の確保、教養教育の位置づけ・実施体制の見直し、語学教育の一層の充実、授業評価を含む組織的・体系的なFD活動等の取組が必要である。<br>【評価項目6項目中 B評価 4 C評価 2】 |     |   |

| 評価項目          | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 達成度 | 中期目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 教養教育の充実     | 教養教育を充実させるための各部局の協力体制を整備し、語学教育や情報処理能力を強化する取組を進めた。<br>一部成果をあげている取組もあり、基礎的能力について就職先企業の評価も低くはないが、専門教育に対する教養教育の位置づけ、カリキュラム等を再検討し、特に、語学教育においてはさらなるレベルアップが必要である。<br>【成果】<br>・人間性を培う教養教育の充実<br>・習熟度別クラス編成による英語教育の強化<br>・基礎的な情報処理能力の育成<br>・各部局の連携・協力による教養教育の実践<br>【課題】<br>・教養教育の位置づけの検証・見直し<br>・カリキュラム新設の検討<br>・語学教育の一層の充実          | C   | Ⅱ 大学の教育・研究等の質の向上に関する目標<br>1 教育に関する目標<br>(1) 教育の成果に関する目標<br>「実学実践」を中核とし、次のような教養教育と高度専門教育とを融合した「人間教育」を各課程において実践することにより、変動する社会の中で自律する地域・組織をリードする人材を養成します。<br>ア 学士課程<br>人間性を培う教養教育を充実するほか、実証的、実践的な研究と組み合わせた高度専門教育により課題解決能力の育成などを図ります。<br>イ 大学院課程<br>高度な専門職教育により研究的視点を持った現場の実践者、独創的・先端的な研究開発を行う能力を有する研究者等の育成を図ります。<br>ウ 準学士課程<br>教養性と専門性の融合による実践的な総合教育を推進するほか、高度情報社会の進展に対応するため、基礎的な情報処理能力の育成などを図ります。 |
| ② 高度な専門教育     | 学士課程・準学士課程における課題解決能力の育成、大学院課程における独創的・先端的研究者の育成のための取組を順調に進めており、採用企業満足度、就職率も高水準を維持している。<br>本学の教育理念をさらに浸透させ、演習・実習の一層の充実等により、学生、就職先企業等のニーズに確実に応えていく必要がある。<br>【成果】<br>・実証的・実践的な研究との組み合わせによる課題解決能力の育成<br>・研究的視点をもつ実践者、独創的・先端的研究者の育成<br>・特色ある資格教育<br>【課題】<br>・教育理念の明確化・共有化<br>・演習・実習の一層の充実化<br>・大学院の教育方針・教育環境の改善<br>・さらなるキャリア教育の支援 | B   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ③ 入学者受入方針の明確化 | 「実学実践」に基づく本学の入学者受入方針について周知を図り、試験制度の継続的な見直しを実施した結果、本学を第1希望とする意欲的な学生の割合が増加している。<br>今後見込まれる少子化に対応するため、入学定員の確保について入試制度の見直しを含め継続的な取組が必要である。特に、大学院の定員充足、編入学入試のあり方については早急に検討を要する。<br>【成果】<br>・人間教育・「実学実践」の教育目標に基づく入試制度の整備<br>・人間性と専門特性に合致した資質・能力ある学生の確保<br>【課題】<br>・入学志願者の確保<br>・入試区分の違いによる学力に対応した教育システムの構築<br>・入試制度全般に関する継続的な検討   | B   | (2) 教育内容等に関する目標<br>ア 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）<br>大学が目指す人間教育と「実学実践」に基づく教育課程における教育目標を明確に示すとともに、これと連動した入試制度を整備し、人間性と専門特性に合致した資質と能力のある学生の確保に努めます。                                                                                                                                                                                                                                                     |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ④ 教育課程・方法等の改善 | <p>実践的課題を採り入れた教育課程・教育方法の改善、成績評価制度の環境整備により、学生のカリキュラム等への満足度が高まったほか、就職先企業からも仕事への取組姿勢、行動力等については概ね評価されている。</p> <p>今後は、カリキュラム、シラバス、成績評価方法等の改善を図り、現行の取組をさらに進展させる必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念に対応した教育課程の編成</li> <li>・実践実習的な指導方法の開発</li> <li>・適切な成績評価制度の構築に向けた環境整備</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの調整・改善</li> <li>・シラバス、履修の手引き等の記載方法の改善</li> <li>・インターンシップ等の単位認定の検討</li> <li>・成績評価の厳格化の検討</li> </ul>                 | B | <p>イ 教育課程、教育方法、成績評価等の方針</p> <p>実践的課題を通した人間教育を実現するため、教養教育と専門教育の融合や実践実習的な指導方法の開発など教育課程、教育方法の改善を図るほか、適切な成績評価制度の整備に取り組みます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ⑤ 教育の実施体制等の充実 | <p>少人数教育の拡充、社会人教育環境の整備、大学間、学部間の単位互換制度の確立等、教育体制・教育環境の向上のため一定の取組を行った。また、F D活動による質の改善への取組も進んでいる。</p> <p>一方で、教養教育の実施体制、民間企業等の学外専門家の活用等、引き続き検討を要する課題があるほか、授業評価を含むF D活動についてはより組織的・体系的な取組が必要となっている。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数教育、社会人教育等による教育環境の向上</li> <li>・学内共通教育等の充実</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の配置方法・負担割合の再検討</li> <li>・他大学との連携・学外専門家の積極活用</li> <li>・学部教育から大学院教育までの一貫教育の検討</li> <li>・授業評価を含む組織的・体系的なF D活動</li> </ul> | C | <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>ア 教職員の適切な配置等</p> <p>教養教育の一層の充実を図るため、効果的な実施体制を整備するほか、「知の創造・交流拠点」として民間企業など学外専門家の積極的な活用を図るとともに、学部と短期大学部間の教員の相互交流を一層促進します。</p> <p>イ 教育環境の向上</p> <p>学術情報機能の充実により、少人数教育、メディア教育に適した教育環境を計画的に整備するほか、岩手県立大学アイーナキャンパスの設置など社会人教育環境の拡充を図ります。</p> <p>ウ 大学間、学内共同教育等の充実</p> <p>(ア) 他大学との共同教育の充実や学部間、学部・短期大学部間の単位互換などを進め、教育資源の有効かつ効果的な活用により学生の多様な教育機会の確保を図ります。</p> <p>(イ) 学部教育と大学院の研究指導の連携を強化し、実践的研究課題への学生の参加を促進します。</p> <p>エ 教育の質の改善</p> <p>教員がより質の高い教育を提供できるよう、学生による授業評価など教育評価システムの拡充やカリキュラムを定期的に評価する仕組みの整備、研修会の開催などを通じて、教育指導法の改善に努めます。</p> |
| ⑥ 学生支援        | <p>学生の学習支援、生活支援、就職支援の体制、社会人・留学生の受入環境を整備した結果、学生からは一定の満足水準を維持している。</p> <p>今後は、現状の相談体制等をさらに充実させ、保護者への情報提供、公務員試験対策、組織的な留学生支援等、きめ細かい支援に取り組む必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援体制の充実</li> <li>・学生生活支援・就職支援の充実</li> <li>・社会人、留学生等が学習しやすい受入環境の整備</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への相談・助言体制の拡充</li> <li>・就学状況の保護者への情報提供</li> <li>・きめ細かい就職支援方策の再検討</li> <li>・留学生支援の検証・改善</li> </ul>                                              | B | <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>ア 学習支援の充実</p> <p>少人数担任制、入学時からの研究室への配属、就学相談など個別相談指導体制の充実を図ります。</p> <p>イ 生活支援・就職支援の充実</p> <p>健康管理センター機能の充実を図るほか、学生相談などによる生活支援体制を整備するとともに、就学継続が困難な学生に対する個別指導の充実や経済的負担の軽減を図ります。また、就職情報の収集・提供、インターンシップなどによる就職支援の充実を図ります。</p> <p>ウ 社会人、留学生等に対する教育支援</p> <p>社会人が学習しやすい教育プログラムの提供や留学生サポートセンターの充実を図るなど、社会人、留学生等に対する教育支援の充実を図ります。</p>                                                                                                                                                                                                     |

カテゴリー 2 「研究」

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |   |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|
| 大目標  | 現代社会の緊急課題や地域課題の研究に重点的に取り組み、成果を社会に還元する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 達成度 | C |
| 評価内容 | <p>① 企業等からの外部研究員を拡充するとともに、学術研究費に「全学プロジェクト研究」等の枠を設置し、資金を重点配分した結果、地域課題への対応と学際的・複合的な研究を推進することができた。</p> <p>② 「公募型地域課題研究」の実施や研究成果発表会の開催等により、地域ニーズの把握や成果の普及・技術移転に取り組んだ結果、一部自治体事業に反映するとともに、受託・共同研究件数が増加するなど、研究成果を地域社会に還元することができた。</p> <p>③ 今後、学際的プロジェクトが積極的に展開されるためのコーディネート機能や相互の協力体制の強化充実を図るとともに、緊急度・重要度に応じた研究テーマの発掘と外部との新たな連携体制の構築などに取り組む必要がある。また、多様な学術分野の教員の研究能力を維持向上させる研究基盤を確保するとともに、各学部の特性に応じた研究者の交流や研究補助員の拡充等を行うなど研究実施体制を整備するほか、併せて科学研究費補助金等の外部資金の獲得についても促進する必要がある。</p> <p>【評価項目 2 項目中 C評価 2】</p> |     |   |

| 評価項目             | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 達成度 | 中期目標                                                                                                                                                    |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 学際的・複合的な研究への取組 | <p>「全学プロジェクト研究」などの学際的・複合的な研究や「公募型地域課題研究」による地域課題の研究を推進した。研究成果は研究成果発表会の開催やWEB公開等で地域に還元したほか、一部の取組は自治体の事業等へ反映され、受託・共同研究件数が増加している。</p> <p>今後、学際的プロジェクトが積極的に展開されるためのコーディネート機能や相互の協力体制の強化充実を図るとともに、緊急度・重要度に応じた研究テーマの発掘と外部との新たな連携体制の構築などに取り組む必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学際的・複合的研究の推進</li><li>・研究成果の地域への還元等</li></ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コーディネート機能や協力体制の強化・充実</li><li>・研究テーマの発掘と外部との新たな連携体制の構築</li></ul> | C   | <p>Ⅱ 2 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>現代社会の緊急課題等を研究テーマとして、多様な専門分野の研究者が学際的・複合的に研究に取り組み、地域社会に有用な優れた研究成果をあげ、その成果を地域社会に積極的に還元します。</p>        |
| ② 研究実施体制等の整備     | <p>研究水準の向上を図るため、企業等からの外部研究員を拡充するとともに、研究資金の配分変更や関係規程の整備など研究環境の整備に努めた結果、科学研究費補助金の獲得件数や金額が増加した。</p> <p>今後、多様な学術分野の教員の研究能力を維持向上させる研究基盤を確保するとともに、各学部の特性に応じた研究者の交流や研究補助員の拡充等を行うなど研究実施体制を整備するほか、併せて科学研究費補助金等の外部資金の獲得についても促進する必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研究資金の重点的な配分</li><li>・研究環境の整備</li></ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外部資金の獲得に向けた取組の拡充</li><li>・研究者間の連携とサポート体制の強化</li></ul>                                | C   | <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <p>研究水準の向上を図るため、民間企業等との研究者交流を積極的に行うなど、適切な研究者等の配置に努めるとともに、全学的研究を推進するための研究資金の重点的な配分や地域連携研究センターを中心とした学内外の連携など研究環境の整備に努めます。</p> |

カテゴリー3「地域・国際貢献」

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|
| 大目標  | 教育機会の充実、シンクタンク機能の強化を図り、国際交流事業を積極的に推進する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 達成度 | C |
| 評価内容 | ① 公開講座の実施や遠隔教育の拡充により、社会人教育等を積極的に推進し、教育機会の充実に努めた。<br>② 「地域連携研究センター」を学内組織として位置づけ、「滝沢村 I P Uイノベーションセンター」の設置など産学公の連携を推進し地域企業の発展に寄与するとともに知的財産の管理・活用の仕組みを整備し、地域のニーズに対応した研究の成果を還元できる環境を整備した。<br>地域課題への政策提言等はまだ不足していることから、今後は地域のニーズを的確に把握するとともに、幅広い連携体制を構築することなどにより、行政等との連携によるシンクタンク機能を強化し、地域の期待に応えられるような地域貢献活動に努めていく必要がある。<br>③ 国際交流事業については、留学生の受入れが主となっていることから、交換留学や共同研究を推進するためには、全学的な方針の明確化と支援体制の構築を行う必要がある。<br><br>【評価項目3項目中   B評価   1   C評価   2】 |     |   |

| 評価項目           | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 達成度 | 中期目標                                                                                                                                                                    |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 社会人教育等の実施    | <p>各キャンパス（滝沢・宮古・アイーナ）における公開講座の実施、遠隔教育の拡充により社会人教育に取り組んだ。</p> <p>今後も地域のニーズを踏まえた社会人教育を引き続き行っていく必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各キャンパスの公開講座と遠隔教育の拡充による社会人教育の充実</li> <li>専門職業教育の充実</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会人教育を担当する教員への支援体制の強化</li> </ul>                                                                                                                                                                        | B   | <p>Ⅱ 3 地域貢献、国際貢献に関する目標</p> <p>(1) 地域貢献に関する目標</p> <p>ア 「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学を目指すため、岩手県立大学アイーナキャンパスを活用した社会人教育や県民学習支援などを積極的に展開するほか、遠隔教育による看護職、福祉職等の専門職業教育の充実を図ります。</p> |
| ② 産学公の連携推進     | <p>「地域連携研究センター」の学内組織としての位置づけ、「滝沢村 IPUイノベーションセンター」の設置、「IPU 地域づくりプラザ」の設置、自治体等との連携協定締結などの産学公の連携により、地域企業の発展に寄与した。また、知的財産の管理について啓発事業や発明規程の改正を行い、地域のニーズに対応した研究の成果を還元できる環境を整備した。</p> <p>今後、これまで以上に地域貢献を推進するためには、両キャンパスにおいて地元のニーズを的確に把握する取組の実施や学部の特性に応じた産学公の連携方法の提案、行政等との連携によるシンクタンク機能の強化等を行い、地域連携、産学連携を一層促進していく必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のニーズに対応した研究とその成果の還元</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携、産学連携の促進</li> </ul> | C   | <p>イ 地域のニーズに対応した研究とその成果を地域に積極的に還元するため、知的財産の管理・活用等を図る仕組みを検討するほか、地域連携研究センターによる産学公の連携研究機能の強化、行政機関等との連携による地域課題への政策提言などシンクタンク機能の強化などを図ります。</p>                               |
| ③ 交換留学・共同研究の推進 | <p>国際交流協定締結大学からの留学生を継続的に受け入れているものの、学生の海外研修への参加や関心が薄く、教員の国際交流も不十分である。</p> <p>今後、国際交流事業を拡大するためには、全学的な方針のもとで、学生及び教員の国際交流に対する支援体制を強化する必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協定大学との交流拡大</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学的な方針の明確化</li> <li>交換留学の推進と教育への反映</li> <li>海外共同研究における支援体制の構築</li> </ul>                                                                                                                                 | C   | <p>(2) 国際貢献に関する目標</p> <p>国際交流協定を締結している海外の大学との交流を一層密にし、交換留学や共同研究など国際交流事業を計画的、効果的に推進するとともに、国際交流事業を教育・研究に活かす取組みを積極的に展開します。</p>                                             |



**カテゴリー 4 「業務運営」**

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------|
| 大目標  | トップのリーダーシップと業務の効率化により、新たな課題に戦略的、機動的に対応する                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 達成度 | <b>C</b> |
| 評価内容 | ① 理事長が主宰する役員会議や、学長が主宰する本部長会議、学部長等会議などを設置し、トップのリーダーシップを発揮できる仕組みを構築するとともに、任用制度の多様化や教員業績評価導入等による人事の適正化、事務局組織の見直しや電算化等による事務の効率化に取り組んだ結果、意思決定の迅速化と業務の効率化等が図られた。<br>② 今後、理事長、学長、各本部長などの意思決定組織の役割・権限の明確化を図るため関係規程の整備をするとともに、全学的な取組が教職員に浸透し、教職員が大学運営に参画しやすい環境づくりを進めるなど、さらなる努力が必要である。<br><b>【評価項目 3 項目中    B 評価    1    C 評価    2 】</b> |     |          |

| 評価項目          | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 達成度      | 中期目標                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 教育・研究組織の見直し | <p>理事長が主宰する役員会議や、学長が主宰する本部長会議、学部長等会議などを設置し、トップのリーダーシップを発揮できる仕組みを構築し、意思決定の迅速化と業務の効率化を図った。</p> <p>共通教育センターの設置などにより、教育・研究に係る組織の見直しを進め、学生等のニーズに対応した教育・研究を実践した。</p> <p>今後、理事長、学長、各本部長などの意思決定組織の役割・権限の明確化を図るため関係規程の整備をするとともに、全学的な取組が教職員に浸透し、教職員が大学運営に参画しやすい環境づくりを進めるなど、さらなる努力が必要である。</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営体制の改善</li> <li>・教育・研究組織の見直し</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割・権限の明確化</li> <li>・教職員等の大学運営への積極的な参画</li> <li>・共通教育センターの見直し等</li> </ul> | <b>C</b> | <p>Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1 運営体制の改善に関する目標</p> <p>経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長が相互に連携して全学的な運営体制を構築しつつ、リーダーシップを発揮できる仕組みにより意思決定の迅速化と業務の効率化を図ります。</p> <p>2 教育・研究組織の見直しに関する目標</p> <p>「実学実践」の理念の下、現代社会のニーズに対応した有用な教育・研究を実践し、優れた成果があげられるよう、教育・研究組織の継続的な見直しを行っていきます。</p> |
| ② 人事の適正化      | <p>任期制・年俸制など多様な任用制度の導入による専門性の高い人材の確保・養成、全学的な観点からの柔軟な教職員の配置、教員業績評価などの導入による実績に対応した適切な評価の仕組みの構築などの取組を進めることにより、人事の適正化に努めた。</p> <p>今後、教員の能力やモチベーション向上のための制度の見直し、組織の安定的運営、活性化等のための教職員の年齢構成等の適正化などに取り組んでいく必要がある。</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の高い人材の確保・養成</li> <li>・全学的な観点からの柔軟な教職員の配置</li> <li>・事務職員等への多様な任用制度の導入</li> <li>・目標管理型評価制度の導入</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・任期付職員等の能力向上</li> <li>・人事評価制度の見直し</li> <li>・教職員の年齢構成の適正化等</li> </ul>            | <b>C</b> | <p>3 人事の適正化に関する目標</p> <p>効率的、効果的な大学経営と教育・研究水準の一層の向上を図るため、専門性の高い人材の確保・養成、全学的な観点からの柔軟な教職員の配置、任期制など多様な任用制度の導入、実績に対する適切な評価などにより、人材の確保・育成、組織の活性化を図ります。</p>                                                                                                            |
| ③ 事務の効率化      | <p>事務局組織の見直し、事務処理の電算化、業務の外部委託化（アウトソーシング）により、効率的、効果的な事務処理を進めた。</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局組織の体制の見直し</li> <li>・事務処理の電算化</li> <li>・業務の外部委託化（アウトソーシング）</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一層の事務の効率化</li> <li>・役割分担の明確化</li> <li>・事務局職員の能力向上とノウハウの継承</li> </ul>                                                                                                                                                                                         | <b>B</b> | <p>4 事務等の効率化、合理化に関する目標</p> <p>効率的、効果的な事務処理を行うため、事務組織の機能編成の見直しを行うとともに、事務処理の電算化、業務の外部委託化（アウトソーシング）を進めます。</p>                                                                                                                                                       |



カテゴリー5「財務」

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |     |          |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------|
| 大目標  | 財務内容の改善に努め、大学経営の健全化を図る                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 達成度 | <b>B</b> |
| 評価内容 | ① 毎年度、県からの運営費交付金が削減される中で、冷暖房運転業務の見直し、設備維持管理費の委託業務への複数年契約の導入等により経費抑制を図るとともに、資金管理方針に基づく安全性を重視した資産管理に努めた結果、毎年度剰余金を生み出すなどの財務内容の改善により経営の健全化を図った。(平成 21 年 3 月末の目的積立金残高:1,464 百万円)<br>② 外部資金の導入金額が減少していることから、今後、さらに科学研究費補助金の応募を促進するなど全学的に積極的な取組を推進する必要がある。(平成 18 年度：69 件、185 百万円⇒平成 21 年度：95 件、140 百万円)<br>③ 運営費交付金が毎年度 1.5%ずつ削減される見通しであることから、今後、さらに経費の抑制を図るとともに、目的積立金の有効活用を図っていく必要がある。<br><b>【評価項目 2 項目中 B評価 1 C評価 1】</b> |     |          |

| 評価項目           | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 達成度      | 中期目標                                                                                                                                      |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 外部研究資金の増加    | <p>プロジェクト研究所の設置などにより研究成果を県民に公表するとともに、科学研究費補助金の学内説明会等を行い、積極的に外部研究資金の獲得に努めた。</p> <p>外部資金の導入金額が減少していることから、今後、さらに科学研究費補助金の応募を促進するなど全学的に積極的な取組を推進する必要がある。(平成 18 年度：69 件、185 百万円⇒平成 21 年度：95 件、140 百万円)</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金の獲得への積極的取組</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金獲得額の増加</li> </ul>                                                                                                | <b>C</b> | <p>Ⅳ 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標</p> <p>学内における研究を活性化し、多様な専門分野の研究者が相互に連携することによって、積極的に外部研究資金の増加に努めます。</p>                |
| ② 経費抑制・資産管理の改善 | <p>冷暖房運転業務の見直し、設備維持管理費の委託業務への複数年契約の導入などにより経費の抑制を図るとともに、資金管理方針の策定等により資産の運用管理の改善に努めた。(経常費用 平成 17 年度： 6,328 百万円⇒平成 21 年度： 5,898 百万円)(平成 21 年 3 月末の目的積立金残高：1,464 百万円)</p> <p>運営費交付金が毎年度 1.5%ずつ削減される見通しであることから、今後、さらに経費の抑制を図るとともに、目的積立金の有効活用を図っていく必要がある。</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経費の抑制</li> <li>資産の運用管理の改善と財務状況の公開</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経費の抑制と目的積立金の有効活用</li> <li>内部監査機能の適正化</li> </ul> | <b>B</b> | <p>2 経費の抑制に関する目標</p> <p>教育・研究の機能強化を図りつつ、恒常的な業務の見直し、改善・効率化により、運営経費の抑制に努めます。</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <p>資産管理の体制を整備し、適切な資産管理を行います。</p> |

カテゴリー6「評価・情報提供」

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------|
| 大目標  | 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映し、運営状況を広く県民に周知する                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 達成度 | <b>B</b> |
| 評価内容 | ① 平成20年度に（財）大学基準協会による認証評価を受審し、評価機関が定める大学基準への適合が認定された。<br>② 部局の運営方針の策定と共有化、PDCAサイクルの仕組みの構築など評価の充実に努めるとともに、自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映した。今後、さらにPDCAサイクルが有効に機能するような仕組みづくりが必要である。<br>③ また、運営状況を広く県民に周知するなど積極的な情報公開の推進を図り、県民の理解が得られるよう努めた。今後、さらに県民の理解が得られるよう、保護者や学校長との懇談会等の場を活用し大学に対するニーズを把握するとともに、効果的な全学広報等を実施していく必要がある。<br>【評価項目2項目中 B評価 2】 |     |          |

| 評価項目      | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 達成度      | 中期目標                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 評価の充実   | 平成20年度に（財）大学基準協会による認証評価を受審し、評価機関が定める大学基準への適合が認定された。<br>年度評価の実施、部局の運営方針の策定と共有化、PDCAサイクルの仕組みの構築など評価の充実に努めるとともに、自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映した。<br>今後、さらにPDCAサイクルが有効に機能するような仕組みづくりが必要である。<br>【成果】<br>・外部評価・第三者評価の受審、認定<br>・PDCAサイクルの仕組みの構築<br>・部局の運営方針の作成と共有化<br>【課題】<br>・評価結果の教職員等へのフィードバック、共有化<br>・計画策定・実績評価への教職員の参画方法の改善<br>・評価結果の公表方法の改善 | <b>B</b> | V 自己点検・評価・改善及び当該状況に係る情報の提供に関する目標<br>1 評価の充実に関する目標<br>教員の「自己点検評価」を恒常的に実施し、教員と教育・研究の質の向上を図るとともに、各部局等の取組計画と実績及び成果について評価を行い、結果を公表して運営の改善・充実に図ります。<br>また、全学の組織・運営、教育・研究活動等について、外部評価・第三者評価を定期的の実施し、その改善に反映させます。 |
| ② 情報公開の推進 | ホームページを見直すとともに、自己点検・評価の結果のほか、教員の経歴、業績等の情報である「教育研究者総覧」や「研究成果報告書」を学外に公開するなど、積極的に情報公開を推進した。<br>今後、さらに県民の理解が得られるよう、保護者や学校長との懇談会等の場を活用し大学に対するニーズを的確に把握するとともに、効果的な全学広報等を実施していく必要がある。<br>【成果】<br>・情報公開の推進<br>【課題】<br>・ホームページの改善<br>・大学に対するニーズの的確な把握<br>・効果的な全学広報の実施<br>・個人情報保護の徹底                                                         | <b>B</b> | 2 情報公開の推進に関する目標<br>教育・研究の成果及び運営状況について、情報公開を積極的に行い、大学の教育・研究活動に対する県民の理解が得られるように努めます。                                                                                                                        |

カテゴリー7「施設設備」

|      |                                                                                                                                                                                               |     |          |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------|
| 大目標  | 施設設備を適切に管理し、学内での有効活用、安全確保を図る                                                                                                                                                                  | 達成度 | <b>A</b> |
| 評価内容 | ① 施設設備を適切に管理し、学内での有効活用を図るほか、ユニバーサルデザイン化に対応した環境整備（トイレ、自動ドア、エレベータ等）、学生が活動しやすい環境整備（学生ボランティアセンターや弓道場の新設）などの施設整備を進めた。<br>② 安全衛生、健康管理、危機管理のための体制整備を図るなど学生及び教職員等の安全確保を図った。<br>【評価項目2項目中 A評価 1 B評価 1】 |     |          |

| 評価項目      | 評価内容                                                                                                                                                                                                                                                                   | 達成度      | 中期目標                                                                                                        |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 施設設備の整備 | ユニバーサルデザイン化に対応した環境整備（トイレ、自動ドア、エレベータ等：17～H19、H21）を推進したほか、学生ボランティアセンター（H19）や弓道場（H21）の新設、大学内の各施設の利用状況をふまえ、就職支援センター（H17）を開設するなど施設の配置を見直し、施設の有効活用を推進した。<br>【成果】<br>・ユニバーサルデザイン化に対応した環境整備等<br>・就職支援センターの開設等<br>・学生が活動しやすい環境の整備<br>【課題】<br>・食堂・売店の施設設備の運営の最適化<br>・学生の学内活動の活発化 | <b>A</b> | VI 施設設備の整備・活用等及び安全管理に関する目標<br>1 施設設備の整備・活用等に関する目標<br>良好な教育・研究環境を確保するため、適切な施設設備の管理に努めるとともに、学内施設設備の有効活用を図ります。 |
| ② 安全管理    | 平成17年度の法人化に伴い、労働安全衛生法等の法令に基づき、学内に「職員衛生委員会」を設置し、安全管理体制を整備するとともに、平成18年度に「公立大学法人岩手県立大学危機管理対応指針」を策定し、危機管理体制を整備するなど、教職員の安全管理に努めた。<br>【成果】<br>・安全衛生・健康管理体制の整備<br>・危機管理体制の整備<br>【課題】<br>・安全確保対策の強化                                                                            | <b>B</b> | 2 安全管理に関する目標<br>教育・研究活動等における安全と健康を確保するために全学的な体制を整備するとともに、学生及び教職員等の安全確保のため、適切な防災・防犯対策を講じます。                  |



4 カテゴリー別評価に関する特記事項

特に積極的に取り組み、中期計画に対して優れた成果をあげることができた事項は次のとおりである。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div><div>1「教育」</div><div><div><div>・ピアカウンセラーの導入</div><div>ピア・サポート制度を導入し、ピアカウンセラーが週2日間程度カウンセリングを行っており、主に履修相談に活用されている。</div></div><div><div>・文部科学省プログラムの採択</div><div>文部科学省の各種プログラムに下記の取組が採択された。<br/>＜特色ある大学教育支援プログラム＞<br/>＊講座制による高度専門教育と人間教育の一体化（ソフトウェア情報学部）<br/>＊自他の文化理解を柱とした国際文化教育（盛岡短期大学部）<br/>＜社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム＞<br/>＊地域の福祉人材のスキルアップ（社会福祉学部）</div></div><div><div>・社会人学生への教育体制整備</div><div>長期履修制度の活用者や社会人学生に対して、夜間、土日及び長期休暇中での開講等を行っている。（看護学部・研究科）</div></div><div><div>・AO入試合格者に対する個別指導</div><div>AO入試合格者を対象とするプレゼミナールを実施し、個別の指導を行う体制を整備した。（社会福祉学部）</div></div><div><div>・PBLの実施率向上</div><div>学生の学会発表件数について高い数値を維持するとともに、PBL(Project Based Learning：学生チームによるプロジェクト実習型学習)の実施率の向上が実現できた。（ソフトウェア情報学部・研究科）</div></div><div><div>・きめ細かな進路指導</div><div>ゼミ教員を通じた、一人ひとりの状況にあわせた進路指導のほか、学内限定の「就職・編入支援web」サイトを活用し、就職関連のイベント紹介、編入学対策のアドバイスなどを自宅のパソコンや携帯電話にメール配信するなど、きめ細かな情報提供に努めている。（宮古短期大学部）</div></div><div><div>・学生緊急貸付制度の導入</div><div>経済的理由で卒業が困難な学生を対象とした緊急貸付制度の導入や金融機関との提携教育ローンを創設し、経済的に困難な学生の支援向上に努めている。</div></div><div><div>・がん看護専門看護師コースの開設</div><div>地域のニーズに対応した、より高度な看護専門能力の育成のため、21年度に日本看護系大学協議会の認定を受けるための準備段階として、がん看護専門看護師のコースを開設した。（看護学研究科）</div></div><div><div>・少人数教育の更なる推進</div><div>情報リテラシー教育と語学教育については、より少人数のクラス編成を行うとともに、TAを活用し、授業改善に取り組んだ。その結果、TOEIC-BRIDGEテストにおいて、前年度に比較して約40%の学生の成績が10点以上アップする等の成果があった。（盛岡短期大学部）</div></div><div><div>・入試制度の見直し</div><div>リカレント教育の裾野を広げるため、社会人編入の入試区分を新設するなどの入試制度改革を行い、平成22年度以降に反映させることとした。（社会福祉学部）</div></div><div><div>・キャリア教育の充実</div><div>地元の企業家等を講師とした「地場産業・企業研究」を新設、卒業単位にも反映させることで、キャリア教育の充実を行っている。（総合政策学部）</div></div><div><div>・学生ボランティア活動の活発化</div><div>学生ホール棟に学生ボランティアセンターを設置し（平成20年4月）、学生の主体的なボランティア活動を推進した。</div></div></div></div> <td><div><div>2「研究」</div><div><div><div>・プロジェクト研究所の設置と外部研究者の積極的な受入れ</div><div>プロジェクトごとの8つの研究所により「戦略的地域再生研究機構」を形成し、外部の研究者を積極的に客員教授等として委嘱し、企業や他大学等との共同研究を推進した。</div></div><div><div>・研究費の見直し</div><div>全学的なプロジェクト研究に重点的に配分するとともに、多様な研究種目を設定し、全ての教員が積極的に研究費を獲得できる仕組みを構築した。</div></div><div><div>・「公募型地域課題研究」の設置</div><div>「公募型地域課題研究」枠を設置し、研究課題を募集して地域ニーズに対応した研究課題（32件）に取り組んだ。</div></div><div><div>・研究者情報システムの稼働</div><div>教員の業績等のデータベースとして研究者情報システムを構築し、平成19年10月から運用を開始するとともに、教員プロフィールの学外公開、教員業績評価や認証評価の業績調書等として活用し、業務の合理化を図っている。</div></div><div><div>・競争的外部資金獲得への取組</div><div>各種の競争的外部資金の助成情報について学内ホームページ等への掲載や学内説明会の開催によって周知を図っている。<br/>特に、科学研究費補助金については、獲得経験豊富な教員による申請書作成説明会や学部ごとの申請書類の作成指導等を行っている。</div></div><div><div>・地域貢献を目指した研究機能の充実</div><div>大学と自治体、地域づくり団体等-との交流の窓口として「I P U地域づくりプラザ」を設置するとともに、「地域づくり研究所」（プロジェクト研究所）の内部組織として、「盛岡市まちづくり研究所」を設置し、盛岡市から派遣された共同研究員2名が、研究成果を地域に還元すべく、市の将来計画策定のための基礎調査や地域づくりの実証的な調査等を実施した。</div></div><div><div>・研究倫理向上への取組</div><div>研究倫理審査規程を改正するとともに研究倫理審査実施要領を定めるとともに、研究費使用のルール等を解説した研究費マニュアルや不正行為防止計画を作成し、研究倫理の向上に取り組んでいる。</div></div><div><div>・高齢者安否確認システム等の地域の福祉課題への対応</div><div>岩手県社会福祉協議会との協働により川井村で進めてきた高齢者の能動的安否確認システムに関する研究は、「高齢者の予防型見守り安否確認システムモデル事業」として、他市町村へ対象が拡大した。（社会福祉学部・研究科）</div></div></div><div><div>3「地域・国際貢献」</div><div><div><div>・組込技術研究会への支援</div><div>組込技術関連の企業や行政等の参加を得て、組込技術研究会を開催しており、活発な情報交換が行われている。また、本研究会の活動は（社）組込みシステム技術協会主催のETロボコン2008北海道・東北地区大会の本学での開催につながった。</div></div><div><div>・自治体等との協定の締結</div><div>紫波町、(株)アイシーエス、二戸地区広域行政事務組合、遠野市、盛岡市、川井村と協定を締結し、共同研究や研究成果の活用を進めた。</div></div><div><div>・地域ニーズに対応した研究</div><div>「介護予防食品プロジェクト」として本学（看護学部、社会福祉学部、盛岡短期大学部）と地域企業、県の研究機関との連携により高齢者向け食品を開発し、開発食品の一部の販売を始めた。</div></div></div></div></div></td> | <div><div>2「研究」</div><div><div><div>・プロジェクト研究所の設置と外部研究者の積極的な受入れ</div><div>プロジェクトごとの8つの研究所により「戦略的地域再生研究機構」を形成し、外部の研究者を積極的に客員教授等として委嘱し、企業や他大学等との共同研究を推進した。</div></div><div><div>・研究費の見直し</div><div>全学的なプロジェクト研究に重点的に配分するとともに、多様な研究種目を設定し、全ての教員が積極的に研究費を獲得できる仕組みを構築した。</div></div><div><div>・「公募型地域課題研究」の設置</div><div>「公募型地域課題研究」枠を設置し、研究課題を募集して地域ニーズに対応した研究課題（32件）に取り組んだ。</div></div><div><div>・研究者情報システムの稼働</div><div>教員の業績等のデータベースとして研究者情報システムを構築し、平成19年10月から運用を開始するとともに、教員プロフィールの学外公開、教員業績評価や認証評価の業績調書等として活用し、業務の合理化を図っている。</div></div><div><div>・競争的外部資金獲得への取組</div><div>各種の競争的外部資金の助成情報について学内ホームページ等への掲載や学内説明会の開催によって周知を図っている。<br/>特に、科学研究費補助金については、獲得経験豊富な教員による申請書作成説明会や学部ごとの申請書類の作成指導等を行っている。</div></div><div><div>・地域貢献を目指した研究機能の充実</div><div>大学と自治体、地域づくり団体等-との交流の窓口として「I P U地域づくりプラザ」を設置するとともに、「地域づくり研究所」（プロジェクト研究所）の内部組織として、「盛岡市まちづくり研究所」を設置し、盛岡市から派遣された共同研究員2名が、研究成果を地域に還元すべく、市の将来計画策定のための基礎調査や地域づくりの実証的な調査等を実施した。</div></div><div><div>・研究倫理向上への取組</div><div>研究倫理審査規程を改正するとともに研究倫理審査実施要領を定めるとともに、研究費使用のルール等を解説した研究費マニュアルや不正行為防止計画を作成し、研究倫理の向上に取り組んでいる。</div></div><div><div>・高齢者安否確認システム等の地域の福祉課題への対応</div><div>岩手県社会福祉協議会との協働により川井村で進めてきた高齢者の能動的安否確認システムに関する研究は、「高齢者の予防型見守り安否確認システムモデル事業」として、他市町村へ対象が拡大した。（社会福祉学部・研究科）</div></div></div><div><div>3「地域・国際貢献」</div><div><div><div>・組込技術研究会への支援</div><div>組込技術関連の企業や行政等の参加を得て、組込技術研究会を開催しており、活発な情報交換が行われている。また、本研究会の活動は（社）組込みシステム技術協会主催のETロボコン2008北海道・東北地区大会の本学での開催につながった。</div></div><div><div>・自治体等との協定の締結</div><div>紫波町、(株)アイシーエス、二戸地区広域行政事務組合、遠野市、盛岡市、川井村と協定を締結し、共同研究や研究成果の活用を進めた。</div></div><div><div>・地域ニーズに対応した研究</div><div>「介護予防食品プロジェクト」として本学（看護学部、社会福祉学部、盛岡短期大学部）と地域企業、県の研究機関との連携により高齢者向け食品を開発し、開発食品の一部の販売を始めた。</div></div></div></div></div> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

・ **地域連携の推進**

外部の専門家を連携支援アドバイザーとして委嘱するとともに、リエゾン担当教員の勤務時間を延長するなど、体制を強化して外部資金獲得、技術移転、事業化支援、地域づくり支援などを推進した。

また、本学担当教員が積極的に企業訪問等を行い、平成 21 年度開所の滝沢村 I P U イノベーションセンターへの I T 企業 5 企業の誘致につなげた。

**4 「業務運営」**

・ **学外の有識者等の登用**

平成 17 年 4 月から、学外理事 2 名を任命するとともに、経営会議及び教育研究会議に学外の委員を任命し、法人・大学運営に外部の意見を反映する仕組みを構築した。

・ **法人採用職員の配置**

平成 19 年 4 月から、法人独自で採用した職員を配置している。(平成 21 年 5 月 1 日現在 38 名)

・ **グループウェアの導入等**

平成 18 年度からグループウェアの導入と給与明細書と健康診断個人票の W E B 通知化を行い、教職員間の情報の共有化と業務の効率化を図っている。

**5 「財務」**

・ **省エネアクションプランの策定と推進**

冷暖房運転の運用を大幅に見直し、省エネアクションプランを策定し、このアクションプランに基づき、毎年度エネルギー使用量の削減を達成している。

**6 「評価・情報提供」**

・ **認証評価における適合認定**

平成 21 年 3 月に（財）大学基準協会による認証評価の結果、岩手県立大学、盛岡短期大学部、宮古短期大学部ともに、同協会の大学基準に適合していると認定された。評価において改善を指摘された事項については、学則変更や平成 2 1 年度計画への反映等を行い、改善に取り組んでいる。

**7 「施設整備」**

・ **ユニバーサルデザインに対応した施設整備**

ユニバーサルデザインに対応した環境整備の年次計画を策定したうえで、トイレや自動ドア等を前倒しで整備することで施設の利便性の向上に努めた。

## 参考2 用語解説

### 《教育》

#### 【入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

受験生に求める能力、意欲、適性、経験などについて、大学の考えをまとめた基本的な方針。本学においては、建学の理念と基本的方向に共感し、「深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間」として育成するのに相応しい学生を求めている。

#### 【インターンシップ】

学生が自らの専攻や将来の職業に関連した就業体験を行う制度。

#### 【リカレント教育】

主に学校教育を終えた後の社会人が、職業上の新たな知識・技術の習得や、日常生活における教養や人間性を高めるため、大学等の高度で専門的な教育機関を利用した教育。

#### 【キャリア教育】

キャリア（経験）を活かして、現在や将来を見据えることなどを主眼として行われる教育（インターンシップ等）。

#### 【情報リテラシー】

情報及び情報手段を主体的に選択して活用していくための個人の基礎的な資質。

#### 【シラバス】

教師がコースの初めに学生に配布する授業計画。内容として、各回の授業のテーマや、そのために予習しておくこと、課題、評価の方法と基準などを盛り込む。

#### 【FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動】

教員がより質の高い教育を提供できるように、教育内容や教授能力を改善・向上させるための組織的な取り組みの総称。その内容としては、教育内容・技術や学生の学習評価についての研究会の開催や、教員相互の授業参観の実施、新任教員に対する研修会の開催などがある。

#### 【ピアカウンセラー】

ピアとは仲間という意味があり、訓練を受けた学生が相談を受ける。学生が同じ立場から解決法を探していこうとするもの。

#### 【AO（アドミッション・オフィス）入試】

学力は問わずに、志望理由書や面接などにより出願者の個性や適性に対して多面的な評価を試み、出願者自身の人物像を学校側の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせて可否を決める入試方法。

### 【TA（ティーチング・アシスタント）制度】

学部教育における実験・演習などへの補助者の導入による教育環境の充実や、大学院生への教育実践の機会を提供するとともに経済的支援に資するため、優秀な大学院生を教育補助者として活用する制度。

### 【TOEIC Bridge】

TOEIC(Test of English for International Communication：世界約 60 ヶ国で実施され、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト)の特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテスト。

## 《研究》

### 【プロジェクト研究所】

岩手県立大学においては、外部研究資金や学外からの研究者の導入を積極的に進めるため、研究プロジェクトごとに地域連携研究センター内にプロジェクト研究所を設置している。「戦略的地域再生研究機構」はこれらを総称した名称。

## 《地域・国際貢献》

### 【組み込み技術】

特定の機能を実現するために家電製品や機械に組み込まれるコンピュータシステムの開発を行う技術。

### 【リエゾン】

「交流、結びつき」の意。大学で使用する場合は、一般的に「企業や行政や地域などが持つニーズを、大学が持つ研究テーマとをつなぎ合わせる役割」のことを指す。

## 《業務運営》

### 【アウトソーシング】

業務を外部の専門業者に委託すること。

## 《財務》

### 【外部資金】

本学の産学官連携の財源として、民間などの外部から受け入れている資金。（「奨学寄付金」、「受託研究費」、「共同研究費」等）

### 【科学研究費補助金】

国内の大学などの研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行なう研究に対する補助金で、外部資金の一種。研究期間と研究費の総額（研究の規模）の違いに応じて、文部科学省が所管するものと日本学術振興会が所管するものとに分けられる。



### 【運営費交付金】

本学の業務運営の財源として、岩手県から交付される交付金。

## 《評価・情報提供》

### 【認証評価】

学校教育法第 109 条第 2 項の規定に基づき、大学が自律的な高等教育機関として、社会の付託に応える体制と内容を十分整備しているか、大学としての教育研究の質を維持しているか、を国が認証した第三者評価機関によって評価される仕組み。

### 【自己点検・評価】

大学に対する社会の負託に応えるため、自らの責任と判断において、教育、研究、組織及び運営等の状況について絶えず検証し、これを改善、改革する一連の活動のこと。

### 【PDCA サイクル】

PDCA とは、P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) という事業活動における、「計画」「実施」「評価」「改善」のマネジメントサイクル。

## 《施設設備》

### 【ユニバーサルデザイン】

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず、利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。

### 【学生ボランティアセンター】

ボランティア活動による学生の社会参加・社会貢献の推進を目標とした施設。学生の持つマンパワーと、地域のボランティアニーズを結びつけている。